

## 2. 取組を進めるに当たり困難であった事例について

### C. 教員の教育・研究指導能力の向上のための方策

#### ①FD体制の整備充実

##### ●信州大学経済・社会政策科学研究科経済・社会政策科学専攻

##### 「双方向ワークショップ型地域作り社会人教育」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

FD体制の整備がうまくできなかった。

(苦労したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

本専攻は社会人受け入れを基本とする定員6名の小規模の専攻である。その結果、入学してくる院生の専攻分野が福祉、地方行政に偏りがちで、これらの分野を専攻しない多くの教員と院生との接触が講義の時だけに限られるか、全くないものになっている。そのため、専攻全体としてFDを行おうというコンセンサスが得られにくいものとなってしまった。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

院生の専攻分野は限られているものの、経済学修士にふさわしい、幅広い見識を身に付けてもらうため、できるだけ受講科目の分野に広がりを持たせるように開講科目を工夫することで、多くの教員が院生との関わりをもつようになる。今後はその方向で工夫を重ねていくつもりである。